

2025 年度 大学院 法学研究科 博士前期課程 入学試験

(一般入学選考 9 月)

1 時限目 A 専門科目

租税法 試験問題

受験番号	氏名

『租税法』

次の二つの問題のうち、一つを選択して論述してください。

問題1 租税法規で用いられる不確定概念に係る問題について論述してください。

問題2 所得概念と現行所得税法の関係に触れたうえで、所得分類の趣旨とその分類について論述してください。

解 答 例

近畿大学大学院法学研究科（博士前期）課程

（2025）年度（9）月期

（一般）入学選考

（A 専門科目）

科目名（租税法）

解答例はなし

出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科（博士前期）課程

（2025）年度（9）月期

（一般）入学選考

（A 専門科目）

科目名（租税法）

問題1

租税法の基本原則である租税法律主義についての理解を問うものである。

その一つである「課税要件明確主義」に関して金子宏『租税法』（弘文堂）などの代表的なテキストを読み込んでその意義及び内容を理解しているか、特に、「不確定概念」との関係について、最高裁昭和53年4月21日判決など具体的な裁判例を挙げて説明ができるかを問うている。

問題2

所得課税の前提として重要な所得概念と現行所得税法との関係についての理解を問うものである。

佐藤英明『スタンダード所得税法』（弘文堂）などの代表的なテキストを読み込み、所得の意義としての「包括的所得概念」の基本的理解と現行所得税法との関係を説明できるか、さらに、現行所得税法が所得を分類する趣旨について東京地裁平成25年9月27日判決などの裁判例も指摘しながら説明できるかを問うている。